

目次

- 2 **巻頭のことば**
上野理事長に聞く
- 3 **中国語の学び方**
軽声のルール
- 4 **中国語でどういう？**
男の人の半分は女の人
- 5 **中国語と日本史**
江戸時代の唐音を振り返る
- 6 **看图学谚语**
絵で見ることわざ(1)
- 8 **紛らわしい文法表現**
“V得/不了⁽¹⁾”と“V得/不了⁽²⁾”
- 10 **ことば雑記**
“女士不宜称先生”か？
- 11 **読者の広場**
「合格基準点到達証明書」のこと
“一点”(時刻)の“一”は第1声？第4声？

発行 一般財団法人日本中国語検定協会

本誌掲載の記事、写真、イラスト等を無断で複製・
複写・転載することを禁じます。

上野理事長に聞く

聞き手：『中国語の環』編集室

——まもなく第100回ですね。

そうですね。今年度末の2020年3月に予定の試験がちょうど100回目です。もっとも第73回は東日本大震災の影響で中止していますから、正確には99回しか実施していませんが……。

——第1回の試験は1981年秋に大阪で実施されたのですね。初めの頃と今では大きな違いはありますか。

まず級別が当初の全4級から現在の全6級に変わったことです。これは4つの級では級と級の間段差が大きすぎるということで、後に2つの級を増設しました。準4級、準1級と「準」のついた級があるのは、その名残です。

出題形式は当初はすべて記述式でしたが、今は選択式が大半を占めています。

中文日訳にしても日文中訳にしても、本当はすべて記述してもらおうのがよいのですが、1回の受験者数が万を超える今日では理想だけを言っているわけにもいきません。ですから、学習者は、例えば与えられた単語の語順を並べ替えて正しい文を組み立てる問題を解く場合、()内に何番が入るかを答えるだけではなく、全文を正しく組み立てることができるよう心がけてほしいですね。

内容面では3級までは高等学校や大学における基礎教育の完成を助けるという位置づけで、発音、聴き取り、文法、翻訳……と、オールラウンドに課していますが、2級から上は聴き取りのほかは中文日訳、日文中訳の力を測ることに重点を置いています。

これは上級の受験者の多くは日中間の経済や文化の交流に関わる仕事に携わっている、あるいはこれから携わろうとしている人たちですから、単に中国語が話せるだけではなくに正しく翻訳することができることを目指してほしいからです。

近頃の傾向として、上の級の受験者にご両親または片方の親が中国人であるネイティブまたはネイティブに近い人が増えていることです。この人たちの答案を見せてもらいますと、日文、中文ともに申し分のない出来の方ももちろんあるのですが、大意は把握できていてもまだ日本語の表現力が不十分であったり、中には肝心の中国語の方がかなり怪しかったりする人も少なくありません。

逆のことは日本人受験者にも言えることですが、外国語を学ぶに当たっては、母語をもっと大切にしてほしいですね。いつも話していることですが、習った外国語の水準が母語を超えることは絶対にありえません。

——第100回以降の抱負は？

運営体制、試験内容、その他すべての仕事を全面的に洗い直し、時代の要請に即した検定試験にしたいものですね。わたくしはもう老兵です。若い世代に期待しましょう。

軽声のルール

県立広島大学 侯 仁鋒

中国語の会話や文章で発音は軽声で発音するものが実に多い。例えば『総合中級中国語教程』改訂版（上野恵司監修 李錚強著）の第1課「打车」では、145語のうち、軽声で発音する箇所が30か所もある。2つの文を例に挙げてみる。（以下、細字部分が軽声である。）

乗客：……。刚来的时候，无论人家问我什么都答不上来。

乗客：那能不能从别的路绕过去？

ご覧のとおり、軽声は2文とも5か所もある。これは何を意味するかと言えば、この軽声を身に付けないと、音声によるコミュニケーションでは支障を来すことになるかもしれないということである。同時に声調（四声）の習得においては軽声を軽んじるべからずということも分かる。

では、どんな場合に軽声で発音する（読む）かは、ある程度ルールがある。

1. 语气词：吧 吗 呢 啊……
2. 后缀：们 子 么 头……
3. 助词：的 地 得 着 了 过
4. 方位词：～上 ～下 ～里 ～中……
5. 重叠动词的第二个字：想想 等等 看看……
6. 趋向补语：妈妈寄来了一个包裹。 田中昨天回日本去了。

那本参考书买回来了。那个姑娘走进咖啡馆去了。（下線を施した字が本動詞。）

以上は文法範疇とされており、一応ルールどおり発音すれば無難であるが、ごく少数の例外がある。例えば“楼上”“城里”“砖头”は軽声で発音しない。

ルールで発音できるものは、まだある。

7. 形容词重叠式的第二个字：漂漂亮亮 大大方方 马马虎虎 热热闹闹……
8. 单字动词重叠中间的“一”：听一听 看一看 想一想……
9. 肯定否定词组中的“不”：来不来 要不要 热不热 好不好……また、“说不定”“要不是”“来不及”“了不起”等も軽声で発音する。

実は、軽声で一番ややこしいとされる場所は、一部の2文字からなる単語の2番目の字はルール無しにただ習慣上軽声で読むことである。例えば、

爱人 部分 除了 地方 点心 东西 父亲 姑娘 故事 接着 觉得 咳嗽
凉快 麻烦 暖和 朋友 时候 太阳 晚上 喜欢 先生 休息 知识……

これらを身に付けるには丸暗記するよりほかないと思われる。

また、次のように、本来の発音で読むか軽声で読むかによって意味が異なるものもあるので、なおさら慎重を要する。

东西—东西（東西—品物） 地道—地道（地下道—本場の）

想起来—想起来（起きよう—思い出した）

最後だが、軽声の発音の仕方としては、本来の発音より、軽くというより短く発音する傾向がもっと強いというように意識しながら練習しよう。

男の人の半分は女の人

日本中国語検定協会副理事長・中京大学 張 勤

中国語には性別の違いを表すのに非常に便利な“男”と“女”という対になることばがある。こういうことを書くと、日本語にも同じことばがあるのではないかと嗤之以鼻されるかもしれないが、実は大いに異なる。

いきなり雅なことばではないが、「男子トイレ」「女子トイレ」を中国語では“男厕所”“女厕所”といい、「男性教員」「女性教員」を“男教师”“女教师”という。このように日本語では、「男子」や「女性」と「～子」「～性」と言い分けしなければならないのに、中国語では“男～”“女～”で済むわけである。“男～”“女～”の接頭語はかなり生産性がある、性別を区別する必要な名詞にほぼみな付くことができる。少し例をあげると、人間を表すものに、“男科学家”と“女科学家”、“男警察”と“女警察”、“男保镖”と“女保镖”、“男佣人”と“女佣人”、“男学生”と“女学生”、“男同学”と“女同学”、“男护士”と“女护士”、“男医生”と“女医生”、“男娃”と“女娃”、“男童”と“女童”、“男朋友”と“女朋友”、また場所や品物を表すものに、“男更衣室”と“女更衣室”、“男浴室”と“女浴室”、“男病房”と“女病房”、“男寝室”と“女寝室”、“男装”と“女装”、“男裤”と“女裤”、“男表”と“女表”、“男提包”と“女提包”、“男式”と“女式”、“男高音”と“女高音”、“男声合唱”と“女声合唱”などなど、枚挙にいとまがない。

例外もある。スポーツ用語としては“男子～”“女子～”という。例えば、バドミントンの男子シングルなら“男子单打”と言い、女子100mの競技なら“女子100米～”と言うので、日本語に似ている。

ところで、日本のテレビなどの報道を聞いていると、日本語の「男（の人）」「女（の人）」はどれもよくないイメージに用いられることが多いようだ。不正があった会社に記者が取材したら、「スタッフと自称する女（の人）は話を聞いていないと言った」となるわけだ。それに対して、中国語の“男人”“女人”には日本語のようなイメージはなく、異性に対比される存在という意味が強い。例えばこの小文のタイトル「男の人の半分は女の人」は、張賢亮の作品『男人的一半是女人』の訳だが、作品は苦難な時代において主人公が女性との出会いによって考えも人生も変わりゆく様子を描いている。また、“女人能顶半边天（女性は天下の半分を支えられる）”という言い方があるが、この“女人”はむしろプラスのイメージである。

では、中国語であまりよくないイメージで「男の人」「女の人」という時は、どのような表現を使うのだろうか。“男的”“女的”という言い方がある。いつもよくないイメージというわけではないが、“三个男的走了进来（3人の男が入ってきた）”“那个女的大叫了一声（あの女は大声で叫んだ）”と聞けば、あまり穏やかな気がしない。

江戸時代の唐音を振り返る

日本中国語検定協会評議員・明治大学 加藤 徹

中国語のカナ表記は難しい。例えば“teng”は、タンかテンかトンか。学生時代、筆者の中国語クラスでのニックネームは「ジャートン」だった。一方、クラス担任の伊藤敬一先生(1927-2017)を同級生たちは「イータン」先生と呼んだ。「なぜ俺だけトンなんだ?」と思ったが、私は心も体形も丸かったので抗議はしなかった。

青春時代の感傷はさておき、昔の日本人も、中国語のカナ表記に苦心した。江戸時代は鎖国だったが、好奇心や趣味で「唐話」(中国語)や「唐音」(中国語の発音)を学ぶ日本人は意外と多かった。が、当時はピンインも注音字母もない。カナ表記を工夫して、中国語を教えるしかなかった。

安永6年(1777年)に江戸で刊行された『唐詩選唐音』を見ると、張継の有名な七言絶句「楓橋夜泊」

月落烏啼霜滿天，江楓漁火對愁眠。姑蘇城外寒山寺，夜半鐘聲到客船。

には以下のようにカナがふってある(原本は縦書き)。

エ ロ ウク テ°イ スヤン マン テン
 キヤン ホン イ、 ホウ トイ チウ ミン
 クウ スウ チン ワイ ハン サン ズウ
 エ、 パン チヨン シン タウ ケ チエン

起句のカナ表記は、今なら「ユエ ルオ ウー ティー シュアン マン ティエン」のように書くところだ。「月」は「エ」だが、江戸時代の「エ(=彘)」は現代の「イエ」に近い発音だった。ちなみに「エビスビール」のローマ字表記がEbisuでなくYebisuである理由も、江戸時代のなごり。「テ°」の「°」は、昔の唐音資料でよく使う異音化記号。「ばびぶべぼ」の「半濁点」も、国語学者が鼻濁音を「がぎぐげご」と表記するのも、ルーツはこの異音化記号の用法である。

18世紀は中国語の口蓋化が進んだ時代で、「江」の発音も「キヤン」から「ジャン」への過渡期だった。「北京」も「ペキン」から「ベイジン」に変わった。

中国語の発音のカナ表記は、原理的にそもそも無理がある。それでも『唐詩選唐音』は頑張った。知識人向けの精確さを考慮し、いろいろ工夫している。

もちろん、いいかげんな本も中にはあった。幕末から明治中期まで、日本では中国伝来の音楽「明清楽」が流行した。中国語歌詞のカナ表記つきの大衆向けのテキストも、続々と刊行された。単純な誤記や誤植や、語学的な精確さより民衆の読みやすさを優先する安直なコンセプトの本も、まま見受けられる。

学術的な精確さか、一般大衆向けの簡便さか。2011年に平凡社が公開した「中国語音節表記ガイドライン」でも、メディア向けと語学教育向けの、2種類の異なる対応表を用意した。江戸時代から続く中国語カナ表記のジレンマは、21世紀の今も未解決だ。でも最近では、未解決でよいのかもしれない、と思うようになった。

絵で見ることわざ(1)

絵・張恢

文・『中国語の環』編集室



百尺高楼从地起

bǎichǐ gāolóu cóng dì qǐ

どんなに高い建物でも地面から築き上げていくものである。いかなる大事業も小さな所から積み上げていかなければならない。



搬起石头砸自己的脚

bānqǐ shítóu zá zìjǐ de jiǎo

(人にぶつけようと) 石を持ち上げて自分の足の上に落としてしまう。自業自得。身から出た錆(さび)。



背靠大树好乘凉

bèi kào dà shù hǎo chéngliáng

大きな木の陰に入れば涼をとりやすい; 頼る相手を選ぶならば、力のある者がよい。寄らば大樹の陰。



百闻不如一见

bǎi wén bù rú yī jiàn

百聞は一見に如かず。他人の話は何度聞くよりも実際に自分の目で見る方が勝っている。



棒打出孝子，娇惯养逆儿

bàngdǎ chū xiào zǐ, jiāo guàn yǎng nì'ér

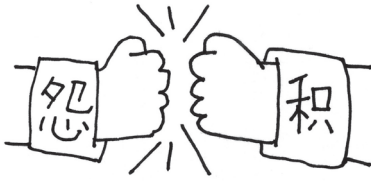
棒でたたいて育てた子は孝行な子となり、甘やかして育てた子は不孝者となる。かわいい子には旅をさせよ。



比上不足，比下有余

bǐ shàng bù zú, bǐ xià yǒu yú

上と比べると足りないが、下と比べると余りがある。下と比べるとまだましだ。足るを知るべきだ。



冰冻三尺，非一日之寒

bīng dòng sān chǐ, fēi yī rì zhī hán

3尺の厚い氷が張るのは1日の寒さによるものではない；事柄の原因は一朝にして生じるものではない。多く不和や怨恨について。



病从口入，祸从口出

bìng cóng kǒu rù, huò cóng kǒu chū

病は口より入り，禍（わざわい）は口より出づ。病気は飲食物から起こり，災いは言葉を慎まないことから起こる。“百病从口入，百祸从口出”とも。



病笃乱投医

bìng dǔ luàn tóu yī

病が重くなるとやたらに医者にかかる；溺れる者はわらをもつかむ。“病急乱投医”“病急乱投药”とも。



不打不成交

bù dǎ bù chéng jiāo

けんかをしなければ仲良しになれない；雨降って地固まる。“不打不成相识”とも。



不管白猫黑猫，抓住老鼠就是好猫

bùguǎn báimāo hēimāo, zhuāzhù lǎoshǔ jiù shì hào māo

白猫でも黒猫でも，ねずみを捕まえるのがよい猫である。



不入虎穴，焉得虎子

bù rù hǔ xué, yān dé hǔ zǐ

虎穴に入らば虎児を得ず。危険を避けては大きな成功を収めることはできない。後半は“不得虎子”とも。

“V得/不了⁽¹⁾”と“V得/不了⁽²⁾”

日本中国語検定協会理事・文京学院大学 魯 曉琨

“V得/不了”は可能補語の表現ですが、同じ形で異なるタイプの可能を表すことができます。まず、例文を見てみましょう。

(1)这些菜，你一个人吃得得了吗？

(これらの料理は一人で食べきれますか。)

—我吃不了。

(食べきれません。)

(2)你刚来日本，吃得得了生鱼片吗？

(日本に来たばかりですが、刺身を食べられますか。)

—我现在还吃不了生鱼片。

(今はまだ食べられません。)

日本語の訳文で示したように、同じ“吃得得了”“吃不了”が(1)では食べられるか否かについての話ですが、(2)では食べることができるか否かについての話です。同じ“吃得/不了”といっても、(1)と(2)は異なるタイプの可能補語の表現です。“V得/不了”は(1)では“了”の実現の可能を表しますが、(2)ではVの実現の可能を表します。ここでは、“了”の実現の可能を表す“V得/不了”を“V得/不了⁽¹⁾”とし、Vの実現の可能を表す“V得/不了”を“V得/不了⁽²⁾”とします。

“V得/不了⁽¹⁾”の“了”は本来は動詞であり、“完”(終わる)“尽”(尽きる)という意味を表します。そのため、“V得/不了⁽¹⁾”は動作の受け手を全部消失させられるか否かを表します。例えば、

(3)钱再多也花得了。

(お金がいくら多くても使いきれないことはない。)

(4)这个西瓜太大，咱们俩吃不了。

(このスイカは大きすぎて、私たち二人では食べきれない。)

(5)你买这么多洗衣粉，一年也用不了。

(こんなに多くの洗濯用洗剤を買ってきて、一年かけても使いきれない。)

(6)我没有酒量，一回喝不了一瓶酒。

(私はそんなに飲めないから、一回で一瓶を飲みきることはできない。)

一方、“V得/不了⁽²⁾”の“了”はただ、動作Vの実現の可能を表します。ここでは、“V得/不了⁽²⁾”を二つのタイプに分類します。

Aタイプ

(7)这个工作，其实小王也干得了，不知他干不干？

(この仕事は実際のところ王さんにもできるが、本人がやってくれるかは分からない。)

(8)我哥哥救不了我。

(兄さんには私を救うことはできない。)

(9)今天他有病了，上不了课了。

(今日彼は病気で授業に出られなくなった。)

(10)今天下雨了，去不了颐和园了。

(今日は雨だから、颐和園には行けなくなった。)

Bタイプ (否定形のみ)

(11)他的病我看好不了了。

(彼の病気はよくなるまいだろうと思います。)

(12)经理见多识广,他要这么办错了。

(社長は見聞が豊かで知識が広いので、社長のやり方で間違いはないでしょう。)

(13)买床急什么，家具店又倒不了。

(そんなに急いでベッドを買わなくても。家具店が潰れることはないだろう。)

(14)这笔买卖我都算好了，最坏也赔不了本。

(今回の企画はちゃんと計画されているので、最悪の場合でも元本を回収できるだろう。)

“V得₍₂₎”はVを実現するための主体の能力条件および外的な条件が備わっていることを，“V不₍₂₎”は能力条件または外的な条件が備わっていないことを表します。(7)では、Vを実現するための主体の能力条件が備わっていることを示しています。ここでは外的な条件に言及していませんが、これは外的な条件が備わっていることを前提に、能力条件にフォーカスしているからです。(8)(9)(10)(11)(12)では、Vを実現するための主体の能力条件が備わっていないことを、(10)(13)(14)では、Vを実現するための外的な条件が備わっていないことを示しています。

AタイプもBタイプもVを実現するための能力条件、外的な条件に言及している点では同様です。しかし、訳文を見るとAタイプは日本語の可能形で訳され、Bタイプは日本語の推測形で訳されています。訳文がAタイプとBタイプの違いを示しています。

AタイプもBタイプも可能表現であるため、話し手による判断を伝えています。客観的な事実に基づく判断を伝えているのか、主観的な推測に基づく判断を伝えているのかの違いがあります。Aタイプでは、Vが動作主体のコントロールできる動詞である場合がほとんどであり、話し手が客観的な事実に基づく判断を伝えています。一方、Bタイプでは、Vが形容詞または動作主体がコントロールできない動詞である場合がほとんどであり、話し手が主観的な推測に基づく判断を伝えています。なお、Aタイプは可能助動詞“能/不能”と類似した表現であり、Bタイプは“不会”と類似した表現です。

次回から“V得/不₍₂₎”のAタイプと“能/不能VP”を弁別し、また“V不₍₂₎”のBタイプと“不会VP”を弁別します。この弁別を通して、“V得/不₍₂₎”と“能”、“会”の区別を明らかにしたいと思います。

“女士不宜称先生”か？

日本中国語検定協会理事長 上野恵司

前回のおしまいに、以下のように記した。

この“先生”について先頃111歳の高齢をもって亡くなった言語学者の周有光氏が、“女士不宜称先生”と女性に使うべきでないと猛反対していたのを思いだす。理由は“混淆性別”（性別の混同），“重男轻女”（男尊女卑）それに《現代汉语词典》に女性に用いるとは書いてない、というものであった。出所は失念したが、確か2003年頃の記事であったから、《現代汉语词典》の新しい版は御覧になっていなかったであろう。

上に「失念した」と記した出所が見つかったので、下に全文を掲げる。

晚近有一股风，对被尊敬的女性，不称女士，而称先生。例如，宋庆龄先生。据说，这是表示对女性的尊敬。这股风极其不妥。理由如下：

- 一、混淆性别。不知底细的人，可能认为宋庆龄先生是男人。
- 二、重男轻女。称先生是尊敬，称女士是不尊敬。这明明表示了重男轻女的下意识。想要尊敬，反而不尊敬了。
- 三、用词混乱。“先生”一词在《现代汉语词典》里有六个义项，没有一项表示女性。《语文现代化论丛》第五辑，语文出版社，2003年10月）

上の文章を書くに当たって周有光氏が見られた《現代汉语词典》の最も新しい版は2002年5月増補本（第4版）のはずで、その“先生”の見出しの意味説明の項目は確かに6つあり、その2番目に“对知识分子的称呼”（知識分子に対する呼称）とある。ちょっと揚げ足取りめくが、女性にも使えるとは書かれていないが、女性に使うてはいけないとも書かれていない。周氏のために弁護するならば、当時の社会通念として“先生”が男性専用の呼称であった以上、もし女性に対しても使うことができるのであれば、当然そのことが断られているはずだということになるであろう。

興味深いのは上の2002年第4版に続く2005年6月刊の《現代汉语词典》第5版の記述である。同じ“先生”の2番目の意味説明の項目に“对知识分子和有一定身份的成年男子的尊称”（知識分子および一定の身分を有する成人男子に対する尊称）と、はっきり「成年男子」にしか使わないことを断っている。第5版の編者が周氏の苦言を汲んだかどうかは定かではないが、この時点では軍配は完全に周氏の側に上げられることになる。

ところが、ここで物言いがつき(笑)、2012年6月刊《現代汉语词典》第6版は第5版の意味説明のあとに“有时也尊称有身份、有声望的女性”（一定の身分や声望を有する女性の尊称として使われることがある）と注記している。

行事差し違えではないが、時代の変遷が周氏の主張に修正を強いているのである。

「合格基準点到達証明書」のこと

杏林大学 板垣友子

中国語を教える仕事に就いてようやく8年たったところです。年齢的にはベテランなのに教学スキルはまだ新人というアンバランスな状態ですが、何とか周囲の先生方に助けられながら日々授業を乗り切ってきました。この8年間、多くの大学の教壇に立つ機会をいただき、そのなかで大学によって学生への支援体制に差があることも分かりました。

例えば中国語の検定試験の受験支援でも、受験料をすべて大学が負担するところもありますし、半額負担の大学もあります。またHSKだけ受験料負担という大学や、合格者だけに受験料返還という大学もありました。ともあれ検定試験の受験支援が学生の学びを後押しすることは確かです。

私自身も学生の学習へのモチベーションを高めるため、中検のリスニング問題を授業に取り入れています。1年生の後期では準4級の問題がかなりクリアできるため、受験への敷居が低くなるようです。同時に4級の問題は容易には解けず、自身の学びに不足している部分が自覚できます。本番の試験の音声担当の先生方の声に慣れるのもコツだと、学生から教わることもありました。

そんななか、中検の過去問題の取り入れが難しい授業もありました。聴覚障害を持つ学生がいたクラスです。その大学では大学院生のサポーターが2人（1人は中国人留学生、1人は日本人学生）、障害を持つ学生の横に座り、さまざまなサポートをしてくれます。座学の授業とは異なり、中国語入門は発音がイノチ！ ですから、最初は戸惑いました。大学からは、なるべく学生の方に顔を向けて講義をすること、板書をしっかりすること、などの指示がありました。学生は日本語では口の動きを読んで理解してくれますが、中国語ではそうもいきません。日本語の発音はできるので、中国語の発音をできるだけカタカナに置き換え、口の中の動きも伝えて声調は手で動きを示します。サポーターの熱心な指導もあり、かなり上手に中国語が話せるようになりました。また、私自身板書は苦手なのですが、なんとかわかりやすく伝えられるよう、さまざまな情報を黒板に書き入れるようにしました。十分ではなかったと思いますが、板書について考え直す機会となりました。

ある日、クラスで中検の受験を勧めたところ、その学生から中検を受けたいと言われたので、日本中国語検定協会にお聞きしたところ、「希望により筆記のみ受験していただき合格基準点に達した場合は、筆記試験のみの『合格基準点到達証明書』を出すことができます」という回答をいただきました。数年前まで『中国語ジャーナル』編集部で長年中検担当をしていたというのに、その制度があることも知らなかったのです……(汗)。早速、学生にはその旨を伝え受験を勧めました。検定協会の配慮に感謝するとともに、受験を希望するすべての人が受けられる検定試験であってほしいと願っています。

“一点”(時刻)の“一”は第1声?第4声?

『中国語の環』編集室(U)

問: これまでの中検の問題で時刻を示す“一点”(1時)の“一”が“yī”と第1声に読まれている場合と“yi”と第4声に読まれている場合とがあるようですが、どちらが正しいのでしょうか。

答: 確かに両方のケースがあるそうですね。実際にテレビやラジオのアナウンサーの発音を聴いていても両方の存在が認められますし、この方面の専門家に訊いてみても二様の答えが返ってきます。という次第で、第1声で録音するか第4声で録音するかは、その回の出題委員長の判断に委ねてきたという経緯があります。

わたくし自身の個人的な解釈としては、第4声に読むのがよいと考えています。理由は1時、2時……の2時を“二点”ではなく“两点”と読むことと関係します。時刻を表す助数詞の“点”はおそらく時を告げる鐘の音を数えるところからきていると思われませんが、だとすれば“一点”は鐘を1つ鳴らす時刻、“两点”は2つ鳴らす時刻ということになります。したがって、“一点”の“一”は1番目、2番目と順序を数えているのではなく、1つ、2つと回数を数えているわけですから第3声“点”(diǎn)の前では変調ルールに従って第4声に読むのがよいと考えるのですが、どうでしょうか。

ただ、ちょっと都合の悪いのは、もうずいぶん古い話になりますが、40年近く前に北京に滞在していた頃、よく昼休みにラジオを聴いていましたが、1時になるとポン、ポン、ポン、ポーンと最後に長い時報が鳴って、そのあとに“刚才最后一响是北京时间下午一点整”(最後のポーンという音が北京時間の午後1時です)と続くのですが、この時の“一点”は第4声ではなく、はっきり第1声に発音されていたように記憶しています。当時親しくしていただいていた北京放送局の陳真さん(日本の中国語教育界にもなじみの深い方ですが、惜しくも10余年前に亡くなりました)に伺ったところ、「強調するためではないでしょうか」とのことでした。

以下はまったくの余談ですが、上の“刚才最后一响是……”について、余計なことを言わなくてもポーンと1つ鳴れば時報に決まりきっているのではないかと苦情が寄せられ、ひとしきり論争が続いたのを覚えています。中に勇ましい反対意見があって、国を挙げて“四个现代化”に取り組んでいるこの大切な時期に公共放送機関がそんな時間の無駄づかいをするのはけしからん、などと声高に主張する人もいました。全国何十だかの放送局が日に何回も何回も“刚才最后一响是……”を繰り返していたのでは、いったいどれほどのと、浪費される時間数まで細かに計算する人まで出てくる始末でした。

今はどうかというと、ポーンと1つだけ鳴って後は時刻を告げるだけであったり、何も言わなかったり、そもそも時報さえ鳴らなかったりのようです。「現代化」もずいぶん進んだものですね(笑)。